

アルヴァ・アアルト生誕120周年記念

国際シンポジウム & 展覧会

—内省する空間—アアルトの図書館と住宅

The 120th Anniversary of the Birth of Alvar Aalto
International Symposium & Exhibition
—Introspective Space— Libraries and Houses of Alvar Aalto

国際シンポジウム

International Symposium

2019.3.16 | Sat |

13:30-17:30 (open 13:00)

建築会館ホール

東京都港区芝 5-26-20

AIJ Hall at Architectural Institute of Japan
(5-26-20 Shiba Minato-ku, Tokyo)

展覧会

Exhibition

2019.3.4 | Mon | - 17 | Sun |

10:00-19:00 (Sat & Sun 10:00-17:00)

日本建築学会建築博物館ギャラリー

東京都港区芝 5-26-20

AIJ Architectural Museum at Architectural
Institute of Japan
(5-26-20 Shiba Minato-ku, Tokyo)

*会期中無休 Open Everyday *入場料無料 Admission Free

主催：一般社団法人日本建築学会、フィンランドセンター

協賛：株式会社建築構造センター、株式会社日本設計、アルテック、株式会社インターオフィス、

鹿島建設株式会社、大成建設株式会社、株式会社竹中工務店、株式会社日建設計、株式会社山下設計、一般社団法人日本建築文化保存協会

後援：フィンランド大使館、東京ステーションギャラリー、北欧建築・デザイン協会

協力：工学院大学鈴木研究室、東京理科大学垣野研究室、東北芸術工科大学西澤研究室、名古屋市立大学久野研究室+有志学生（愛知淑徳大学、大同大学、名城大学、名古屋大学）、
スタジオ香川、AALTO120、一般社団法人東京建築アクセスポイント、一般社団法人 DOCOMOMO Japan

模型出展協力：関口美術館 写真出展協力：小泉 隆（九州産業大学）

展覧会会場構成：東京理科大学岩岡研究室

キュレーション：和田菜穂子

お問い合わせ：日本建築学会総務グループ（図書館・建築博物館）三島 隆 mishima@aij.or.jp 03-3456-2019

アルヴァ・アアルト (1898-1976) の建築には可視化できない薄いヴェールのようなものが存在しているように思われます。それによって包まれた室内は、一人で物思いに耽る空間、もしくは読書の世界に没頭する空間に姿を変え、人々を誘います。アルヴァ・アアルトの生誕 120 周年を記念し、日本建築学会とフィンランドセンターの共同主催で、「内省する空間 Introspective Space」と題し、国際シンポジウムと展覧会を開催します。国際シンポジウムではフィンランドから JKMM アーキテクトの一人チーム・クルケラ氏とアルヴァ・アアルト財団のトムミ・リンダ氏を招聘し、現代におけるアアルトの意義を再考します。JKMM アーキテクトは 1998 年よりヘルシンキを拠点に活動している 4 人の建築家が率いる設計事務所で、トゥルク市立図書館 (2007 年竣工) やセイナヨキ市立図書館 (2012 年竣工) などを手がけています。日本建築学会建築博物館ギャラリーにおける展覧会では、複数の大学研究室の学生らによって製作されたアアルトの模型を展示します。アアルトの空間を多角的に読み解く機会になれば幸いです。

It seems as if something similar to an invisible veil exists inside Alvar Aalto's architecture. The interior space wrapped by this 'veil' invites people by transforming the room into a space that one can lose oneself in deep thought, or devote oneself to one's book. On the 120th Anniversary of the Birth of Alvar Aalto, International Symposium and Exhibition titled "Introspective Space" are held by Architectural Institute of Japan and Finnish Institute in Japan. Teemu Kurkela, one of members of JKMM Architects, and Tommi Lindh from Alvar Aalto Foundation will be invited from Finland to discuss the significance of Alvar Aalto in the 21st century. JKMM Architects is an architectural firm founded by 4 leading members based on Helsinki and has designed Turku City Library (2007) and Seinajoki City Library (2012) and other works. The Exhibition at AIJ Architectural Museum will exhibit architectural models of Alvar Aalto's works produced by university students from several laboratories. It would be appreciated if the International Symposium and the Exhibition become good opportunity to analyze the space created by Alva Aalto in diversified ways.

国際シンポジウム International Symposium

2019.3.16 (sat) 13:30-17:00 (Open 13:00)

参加費：一般 2000 円、後援団体 1500 円、

学会会員 1000 円、学生 500 円 (会員証・学生証を提示)

定員：200 名 (申込先着順)

事前申込：日本建築学会 web サイト

<https://www.aij.or.jp/event/detail.html?productId=615789>

Reservation in advance from AIJ website

プログラム

■開会の言葉 Opening Speech

古谷誠章 (日本建築学会会長 / 早稲田大学教授)

Nobuaki Furuya (President of AIJ/Professor of Waseda University)

アンナ=マリア・ウィルヤネン (フィンランドセンター所長)

Anna-Maria Wiljanen (President of Finnish Institute in Japan)

■基調講演 Keynote Speech

「建築と市民に向けた取り組み—セイナヨキ市立図書館」

チーム・クルケラ (JKMM アーキテクト)

"Approach to Architecture and Citizen—Learning from Seinajoki City Library"
Teemu Kurkela (JKMM Architects)

「読書のための光と空間」

堀場 弘 (東京都市大学教授 / シーラカンス K&H)

"Light and Space for Reading"

Hiroshi Horiba (Professor of Tokyo City University/Coelakanth K&H Architects, Inc.)

■セッション Session

「アルヴァとアイノ・アアルト—近代建築およびモダンデザインの先駆者」

トムミ・リンダ (アルヴァ・アアルト財団 マネージング・ディレクター)

"Aino & Alvar Aalto - Groundbreakers of Modern Architecture and Design"
Tommi Lindh (Managing director of Alvar Aalto Foundation)

「アルヴァ・アアルトと日本」

和田菜穂子 (東京建築アクセスポイント / AALTO120)

"Alvar Aalto and Japan"

Nahoko Wada (Accesspoint: Architecture-Tokyo / AALTO120)

モデレーター：三宅理一 (東京理科大学客員教授)

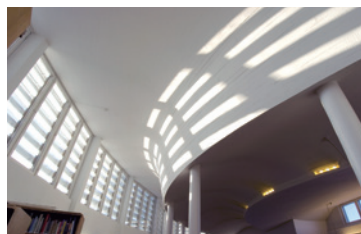
Moderator: Riichi Miyake (Guest Professor of Tokyo University of Science)

■閉会の言葉 Closing Speech

竹内徹 (日本建築学会建築博物館館長 / 東京工業大学教授)

Toru Takeuchi (Director of AIJ Architectural Museum/Professor of Tokyo Institute of Technology)

* 同時通訳 Japanese-English Simultaneous interpretation



(左上) セイナヨキの図書館、(上右) ヴィープリの図書館、(下左) マイラア邸、(下右) ルイ・カレ邸 photo: 小泉隆

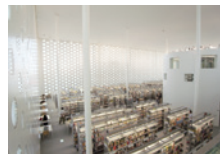


(左) photo: Hannu Rytty

(右) セイナヨキ市立図書館 photo: Tuomas Uusheimo

チーム・クルケラ Teemu Kurkela

1966 年生。コロンビア大学およびヘルシンキ工科大学にて建築を学ぶ。1998 年 4 人のパートナーとともに JKMM アーキテクト共同設立。現在は 100 人以上のスタッフを抱えるフィンランド最大規模の設計事務所。2011-18 年アアルト大学教授、ハーバード大学や清華大学でも講演やゲストクリティークを行う。フィンランド建築博物館理事なども歴任。主な作品に、ヘルシンキ芸術大学、セイナヨキ市立図書館、トゥルク市立図書館、ユヴァスキュラ音楽ホールなど。



金沢海みらい図書館 photo: シーラカンス K&H

堀場 弘 Hiroshi Horiba

1960 年生。武蔵工業大学 (現・東京都市大学) および東京大学大学院にて建築を学ぶ。1986 年 6 人のパートナーによってシーラカンス共同設立。1998 年工藤和美とシーラカンス K & H に改組。2013-10 年東京都市大学客員教授、2011 年東京都市大学教授。主な作品に千葉市立打瀬小学校 (1997 年日本建築学会賞)、金沢海みらい図書館 (日本建築学会作品選奨、BCS 賞、International Architecture Awards 他)、山鹿市立山鹿小学校 (日本建築大賞) など。

トムミ・リンダ Tommi Lindh

ヘルシンキ工科大学にて建築および建築史を学ぶ。2007-2011 年文化財保存修復研究国際センター (ICCROM) の評議員を務めるなど、フィンランド国内外で近代建築の保存修復に携わる。2013 年アルヴァ・アアルト・ミュージアム館長を経て、2018 年よりアルヴァ・アアルト財団 マネージング・ディレクターに就任。

和田菜穂子 Nahoko Wada

慶應義塾大学大学院にて近代建築史を学ぶ。博士 (学術)。2006-2008 年コペンハーゲン大学留学、2009-2014 年東北芸術工科大学准教授、2015 年東京芸術大学特任准教授を経て、2016 年より東京建築アクセスポイント代表理事。国際巡回展「アルヴァ・アアルト もうひとつの自然」の日本巡回コーディネーター、日本建築学会建築博物館委員会委員として本展覧会のキュレーションを担当。